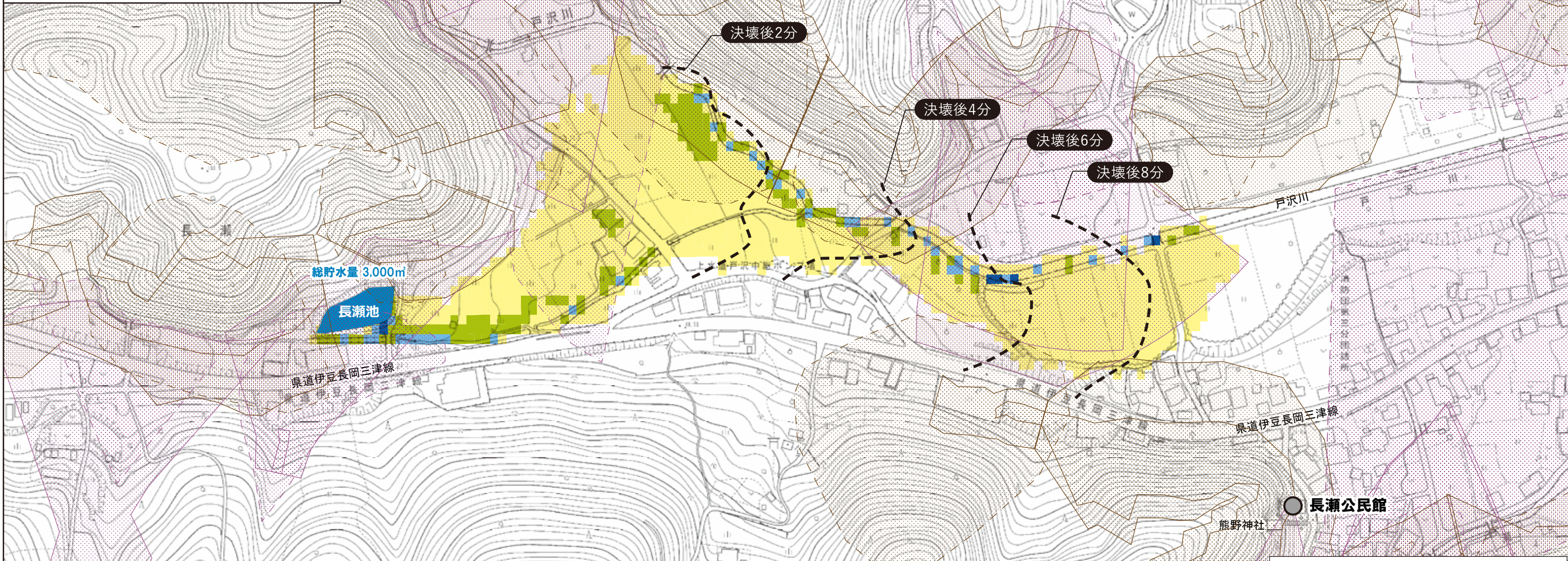


# ため池ハザードマップ 長瀬池

令和4年3月作成

このマップは、長瀬池が決壊した場合の被害を把握するために、全ての貯水量が瞬時に流出する状況を想定し、10分後の浸水範囲を表示しています。災害の状況によっては、表示されている範囲以外においても、被害が発生する可能性がありますので、注意してください。

● 戸沢公民館



総貯水量 3,000m³

長瀬池

県道伊豆長岡三津線

県道伊豆長岡三津線

熊野神社

● 長瀬公民館

## 浸水の深さ(決壊～10分後の中で最も深い水深を表示しています)



## 豪雨、地震によるため池の決壊が発生したとき

- 屋外にいたら → マップの浸水範囲外に避難しましょう。
  - 屋内にいたら → 自宅に留まりましょう。(むやみな移動はかえって危険です。)
  - 避難場所へは → 自宅が壊れるなど、避難場所に移動しなければならない場合は、周囲の状況を確認しながら避難しましょう。(豪雨発生時は、河川の水位、音にも注意しましょう)
- ※災害発生後は、安全が確認されるまでは十分に注意しましょう。

## 凡例

- 決壊後、2分ごとの水の到達ライン
- 土砂災害(令和2年3月現在)
  - 急傾斜地の崩壊(特別警戒区域・警戒区域)
  - 急傾斜地崩壊危険箇所
  - 土石流(特別警戒区域・警戒区域)
  - 土石流危険区域

## 地区避難所

名称	所在地	使用可否		
		地震	洪水	土砂
長瀬公民館	長瀬260-1	○	○	×
戸沢公民館	戸沢43-1	○	○	×

※伊豆の国市地域防災計画(令和3年3月)より



# 伊豆の国市ため池ハザードマップ

長瀬池  
NAGASE-IKE

## ため池ハザードマップとは

ため池が決壊した場合の浸水区域を予測し、地図に示したものです。

近年、局地的な大雨や大規模な地震などによるため池の被害が発生しています。また、過疎化や高齢化が進み、ため池の適切な管理や、緊急時の情報伝達が的確に行われない懸念が生じています。

そのため、ため池が決壊した場合に、迅速かつ安全に避難するための参考資料として、「ため池ハザードマップ」を作成しました。

## ハザードマップを作成すると・・・

### 日頃の防災意識を高めることができます

あらかじめ避難先を家族と話し合い、ため池決壊が起こりうることを意識することで、被害を防ぐことができます。

### 地域が抱える危険を、みんなで考えることができます

地域の防災対策の基礎資料となります。また、隣近所で助け合うことができます。

### 災害が起きたときに、すばやく的確な避難ができます

単に早く避難すれば良いとは限りません。状況によって、避難しない方が良い場合もあります。

## マップの使用方法

マップを見て、どこへ逃げるのか災害の形態（豪雨、地震など）に合わせて確認しましょう。

### ステップ 1

あなたの家の位置を探して、周辺の危険箇所などの状況を確認しましょう。



### ステップ 2

あなたの家の避難場所と避難経路を選択しましょう。



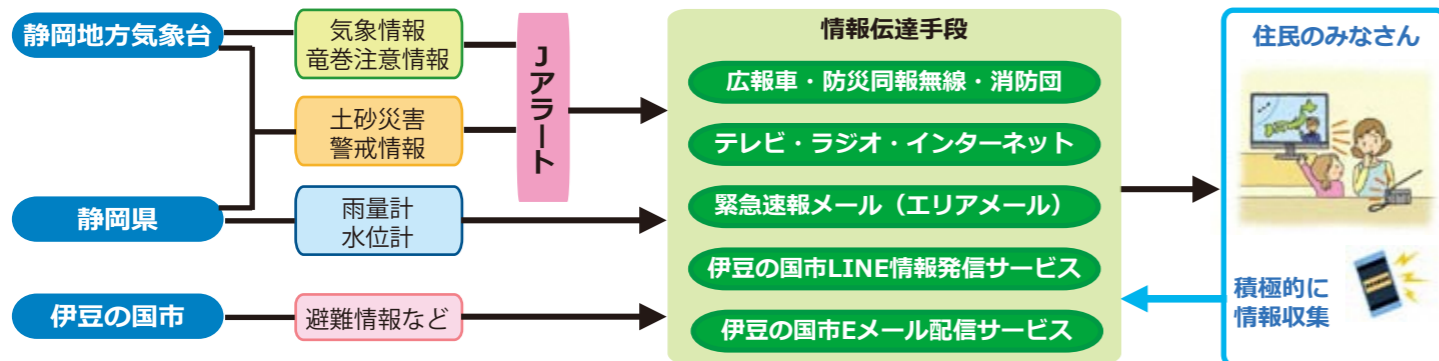
### ステップ 3

あなたが地図上で選択した避難経路を実際に歩いて安全かどうか確認しましょう。（その他の避難経路も確認しましょう。）



## 防災情報の流れ

気象情報や土砂災害情報、避難情報などの防災情報は、テレビ・ラジオ・インターネット・携帯電話・スマートフォン・防災行政無線などを通じて住民のみなさんに伝達されます。自らも積極的に情報収集をして、もしもの場合に備えましょう。



## 避難情報のレベルと取るべき行動

避難情報には、緊急度に応じて5つのレベルがあります。どのような違いがあるか確認しておきましょう。

レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
<b>早期注意情報</b> (警戒級の可能性) 災害への心構えを高め、最新の気象情報に注意してください。	<b>大雨注意報</b> <b>洪水注意報</b> ハザードマップ等で避難場所や避難経路を再確認してください。	<b>高齢者等避難</b> お年寄りや身体の不自由な方などは避難を始めてください。	<b>避難指示</b> すみやかに安全な場所へ避難してください。	<b>緊急安全確保</b> 命を守る最善の行動をとってください。

## 状況に応じた避難とは

想定される浸水の深さによって、避難時に注意すべきことが異なります。マップをよく見て、避難場所や避難方法を考えましょう。

### 豪雨、地震によるため池の決壊が発生したとき

- 屋外にいたら → マップの浸水範囲外に避難しましょう。
- 屋内にいたら → 自宅に留まりましょう。（むやみな移動はかえって危険です。）
- 避難場所へは → 自宅が壊れるなど、避難場所に移動しなければならない場合は、周囲の状況を確認しながら避難しましょう。（豪雨発生時は、河川の水位、音にも注意しましょう）

※災害発生後は、安全が確認されるまでは十分に注意しましょう。

### 基本的な考え方

避難のために外出する方が、かえって危険な場合もあります。市から発令される避難情報に注意して、避難所へ避難するか、屋内の比較的安全な場所（2階等）に留まるなど、命を守るための判断・行動をとってください。

